

追悼 出口良生氏

平不二夫

出口良生さんと私との出会いは、昭和30年4月に始まる、今から51年前ということになる。東京教育大学芸術学科工芸・建築学専攻の1年生として入学した私達を2年生から4年生にわたる上級生が新歓コンパを催してくれた時であった。1学年8~5名という小人数の専攻であったので、上級生から下級生に至るまであまり学年の隔たりを意識せずにすぐに学校に馴染めたのは幸いであった。このコンパの席上で最上級生の出口先輩の挨拶が今でも強く印象に残っている。「君達は、演劇と陶芸には絶対にのめり込まないように、これは快樂の世界である。この誘惑に身を投じて、どうにもならなくなったという先輩達が大量居る。それよりも工業デザイン・建築デザイン等のデザイナーとして君達は全うすべきである。」という主旨の大演説であったと記憶している。

今から思えば当時の若者にとって演劇運動や左翼運動に身を投じることは時代の風潮であった。ずいぶんと思いきったことを言う先輩であるなといった印象があるが、時が経つにしたがってその周辺の事情が飲み込めて来た。出口さんの卒論は当時としては最先端に行く「モジュラーコーディネーション・システムについて」というテーマであった。昭和31年春に卒業した出口さんは、ただちに岡村製作所に入社をした。

出口さんとの個人的なつき合いが深まるにつれ、強烈な出口流のアジテーションにあおられて、私も色々な影響を受けてきた。しかしこの人の、攻めには滅法強く、守りには滅法弱いという性格、凝り始めたら格好がつくまで止めないという柱格は、良かれ悪しかれ一生変わらなかったと思う。

昭和30年代より昭和50年代ににかけての日本の流れは技術革新・グローバルな経済活動の拡大・生活様式の変革という攻めの時代で、まさに出口さん流の攻めの行き方と時代とが見事に 致をしていたことは幸運であった。やることなす

惜別、出口良生 先生



こと次々に実現して行ったのである。ジェット口派遣の留学生として米国のアートセンター・スクールに留学し、回日もスケールが大きくなって帰国したことも幸いした。

時代が進み昭和40年後半はスチール家具業界のリーダーである岡村製作所のデザイン部長として出口さんは学校用家具のJIS規格の実現、オフィス、ショッピングの家具のシステム化等、数々の成果を上げてきたことは周知の事実である。

昭和49年秋、東京教育大学の筑波移転の問題が現実化してきて、具体的な人事の対応にせまられてきた。芸術の分野では工業デザインの中核となる人事が問題となり、40歳代半ばの世代で企業の事情を周知し名実共に実績があるという条件の、働き盛りの人物を見つけ出すことは困難を極めた。最後に現役のデザイン部長である出口さんをとという話が持ち上がり、入院中の阿妻先生に代わり、私とその説得に向くことになったのである。

久しぶりに会った出口さんは何となく日焼けが薄れスッキリとした顔をしていた。聞くところによると、1か月前、自宅の手の届かない2階の窓を拭くため、梯子を掛けて作業をしていたところ踏みはずし転落し、後頭部を打ち、1週間ばかり人事不省に陥りやっと回復したところであるということであった。

この時期、夜は午前様、早朝出勤というメーカーの管理職の激務と共に、来年は取締役に昇格し、どこかの工場長とし

て赴任し、デザインの現場を離れ、労働組合の吊上げに会うであろうというストーリーに、守りの苦手な出口さんは頭を悩ましていたのである。

そこで、デザインの業務から離れることは不本意である。給料は半分になるけれども、新しい筑波大学の創設に参加しようという攻めの出口の復活となったわけである。

筑波に移転をし出口さんは単身赴任の宿舍住まいと成った。そこで発揮されるのがグルメの出口という面である。例の凝り性で、目刺し1匹から始まり、料理全般に厳しい目が行き届く北大路魯山人のごとき存在で、またたく間に出口さん宅は職場を越えた近所の人々の集会所のごとき様相を呈した。最も得意な料理は正月のお節料理 式であった。

筑波大学も発足して10年、軌道に乗った時点の昭和59年教授となり、平成2年大学院芸術研究科長(修士課程)に就任、公私共に頂調であったが、攻めの出口さんにとっては、平穩な日々には少々物足りなさがあつたのではないかと思える節があつた。

そこに出てきた話が岡山県立大学のデザイン学部創設という仕事であった。またもや攻めの出口の出番である。コンピュータをデザインにいかにか全面的に導入するかという命題に熱中し夢を描いた。平成5年に岡山県立大学のデザイン学部長として転出をした。その後、大学は順調に軌道に乗り、平成12年、日本デザイン学会秋季大会の開催校となり、出口さんは大会実行委員長の役を果たした。

思えばこの頃が出口さんにとって 一番喜ばしい華やかな時期でもあつた。しかし不幸にもその直後に胃癌の宣告を受け、胃とその周辺を摘出するという大手術を行い、80キロもあつた体重が45キロとなり、公私共に困難な守りの時期を迎えたのである。平成18年8月24日、テレビを見ている最中に「アッ」という声を受け食道静脈瘤の破裂で亡くなられたとのこと。原因はアルコールによる肝障害とのこと、出口さんらしい去り方かなと感慨ひとしおである。昭和7年生まれ享年74歳、ご冥福をお祈り致します。

## 平成18年度第3回理事会議事録

日 時：平成18年6月30日(金)

12:00 ~ 12:50

場 所：金沢21世紀美術館

シアター21 第一会議室

出席者：杉山, 蓮見, 五十嵐, 大島, 岡崎, 工藤(卓), 工藤(芳), 國本, 車, 黒川, 酒井, 佐藤, 白石, 田村, 中嶋, 生田目, 松岡, 宮崎, 森田, 両角, 山中, 國澤, 阿部, 八馬, 金

委任状出席：青木(弘), 青木(史), 石川, 植村, 大平, 面矢, 清水, 久保, 須永, 西川, 原田, 降旗, 細谷

名誉会員出席者：飯岡, 田中(淳), 高山, 宮崎(紀), 山岸, 谷内

### 1. 会長挨拶

杉山会長より挨拶がなされた。

### 2. 名誉会員紹介 (杉山会長)

本理事会に出席している名誉会員の紹介がなされた。

### 3. 平成18年度第2回理事会議事録の承認

(八馬本部事務局幹事)

八馬本部事務局幹事より平成18年度第2回の議事録案が提示され、「10. その他」のデザインシンポジウムへの参加について、4年後にデザイン学会が幹事学会となることの表現を修正することで承認された。

### 【審議事項】

#### 4. 平成18年度秋季企画大会について

(國澤大会実行委員)

國澤大会実行委員より、平成18年度秋季企画大会の準備について説明がなされた。都市におけるデザイン/アートの可能性について議論していくことを軸に、秋葉原コンベンショ

ンホールAで午後2時から開催する予定であること、首都大学東京と産業技術大学院大学が共催すること、会費は会員3千円、一般5千円を設定していることが説明され、承認された。

#### 5. 「デザイン塾2006開催の御案内(第2支部)」

(松岡支部長)

松岡第2支部長より、支部活性化の一環として、7月14日にデザイン学会第2支部が共催する「デザイン塾」を開催することについて説明がなされた。配布資料に基づき、「デザイン理論&方法論の新展開」と題する研究集会のプログラムが紹介され、第2支部の活性化との結びつきと内容をよりリンクするようなアイデアを盛り込むことで承認された。

#### 6. 会員の移動について

(八馬本部事務局幹事)

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会[正会員17名(内外国人6名)], 退会[正会員3名]が承認された。

#### 7. その他

特になし。

### 【報告事項】

#### 8. 「グッドプレゼンテーション賞」選考要領(決定)について

(岡崎概要集編集委員会委員長)

平成18年度春季研究発表において設ける「グッドプレゼンテーション賞」の選考要領について報告がなされ、次回以降の参考になるように、知見をまとめておくことが要請された。

#### 9. 第5支部本年度活動方針・計画について

(車支部長)

車第5支部長より、支部研究発表会を11月に九州大学で行う計画に関する報告がなされた。

#### 10. その他

・生田目広報委員から、新しいHPの枠組みができたことが報告され、コンテンツの充実について各理事に依頼する場合があることが示された。  
・松岡理事から、配布資料に基づきデザイン学会が共催する「Designシンポジウム2006」の告知が行われた。

#### 11. 次回理事会(運営)日程について

平成18年9月16日(土)13:00 ~ 16:00  
拓殖大学文京キャンパス

記録：八馬

## 平成18年度第4回理事会議事録

日 時：平成18年9月16日(土)  
13:00～15:30  
場 所：拓殖大学文京キャンパス  
S201教室  
出席者：杉山、青木(弘)、蓮見、  
五十嵐、大島、大平、中嶋、  
生田目、松岡、両角、長田、  
國澤、阿部、八馬、金  
委任状出席：石川、工藤(卓)、森田

### 1. 会長挨拶

杉山会長より挨拶がなされた。

### 2. 平成18年度第3回理事会議事録の承認

(八馬本部事務局幹事)

八馬本部事務局幹事より平成18年度第3回の議事録案が提示され、誤字脱字を修正することで承認された。

## 【審議事項】

### 3. 学会各賞について

(青木学会各賞選考委員会委員長代理) 配布資料に基づき、青木委員長代理から平成18年度学会各賞選考結果の報告がなされた。各賞の推薦状況、研究奨励賞1件(鈴木直人「工芸振興に基づく途上国の効果的開発計画に関する研究」)、年間論文賞2件(面矢慎介「英国における鍋の近代化 - 近代家庭機器のデザイン史」、翁群儀・植田憲・宮崎清「1930年代台湾漆器「蓬菜塗」の意匠特質」)、年間作品賞1件(木下史青「東京国立博物館本館 日本ギャラリー リニューアル」)についての選考経緯および理由が示され、承認された。

また、学会賞については推薦された2件が要件を満たしていないという判断で該当なしとしたこと、会員からの推薦件数が少ないこと、秋季企画大会において表彰式を行うこと、選考委員会の中で作品主体の学会賞について議論を継続して行っている

ことが報告された。

### 4. 平成18年度秋季企画大会について

(長田大会実行委員会委員長)

平成18年度秋季企画大会について、長田委員長よりプログラム、ゲストスピーカーの紹介、スケジュールなどの具体的な内容を示された。パネルディスカッションについては、デザインだけに還元される議論ではなく、アートや都市計画などに広がる議論をする意向が示され、その内容が明確に伝わる工夫をすることで承認された。

### 5. 学会ホームページについて

(生田目広報委員会委員長・大島委員)

現在構築を進めている新たな学会のホームページについて、生田目委員長と大島委員より画面を提示しながらその主旨や特徴などが解説された。部分的に足りない箇所があるが、秋季大会前に公開したい意向が示され、レイアウトに若干変更を加えることと運用しながら調整を図ることで承認された。

レンタルサーバーは単年度契約とすること、アクセス権限を各委員会に配布して内容の更新を迅速に行えるようにすること、更新された内容については本部事務局と広報委員会で確認すること、当面は規定で縛らずに柔軟な運用を目指すことについて議論され、承認された。

各部会の担当者を対象とする講習会を開催すること、英語化は日本語のコンテンツが充実したあとに予算を確保して行うこと、学会主催のイベント以外の各種案内の取り扱い、Web上での退会手続きなどについては、今後の推移を観察しながら継続して検討することとなった。

### 6. Design シンポジウム2008について

(松岡理事)

松岡理事より6つの学会の共催でデ

ザインについて議論する場である「Design シンポジウム」について報告がなされた。すでに2010年をデザイン学会が担当することが承認されていたが、他学会の関係で2008年を担当するよう親幹事会から提案があったことを受け、運営体制、予算体制、秋季企画大会や支部大会との調整や位置付けなどが議論され、松岡理事が企画案を策定して後日審議することとなった。

### 7. 会員の移動について

(八馬本部事務局幹事)

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会[正会員19名(内外国人3名)年間購読1件]、退会[正会員10名、賛助会員3件、年間購読1件]が承認された。

### 8. その他

特になし。

## 【審議事項】

### 9. IASDRに関する最近の動きについて

(杉山会長)

配布資料に基づき、IASDRに関する最近の動きについて杉山会長から説明がなされた。IASDRの運営を含め、2013年に日本開催を招聘中のICED(インターナショナル・カンファレンス・エンジニアリング・デザイン)との関係について、リスボンにおける第2回理事会(11月2日)において議論する予定であることが報告された。

### 10. 第2支部活動について

(松岡支部長)

慶応義塾大学デザインスクール主催、第2支部共催で行ったデザイン塾(7月14日)について、松岡支部長から報告された。今後は、作品展示、産学のコラボレーションのシンポジウムなどさらに支部らしい動きも検討していることが示された。



## 11. 作品審査応募について

(中嶋作品審査委員会委員長)

中嶋委員長より、作品審査の応募件数が例年より多い35件あったこと、今後の審査の流れ、現状などが報告された。

## 12. CPDについて

(五十嵐事業委員会(継続教育・資格制度)委員長)

五十嵐委員長より、CPDに関する研究会、勉強会、シンポジウム、ワークショップの開催を検討していることが報告された。

## 13. 芸術学関連学会シンポジウムテーマについて

(黒川理事 代理國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より、配布資料に基づき芸術学関連学会シンポジウムテーマについて説明がなされ、次回理事会で審議することとなった。

## 14. 景観法特別研究特集号について

(黒川理事 代理國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より、配布資料に基づき景観法特別研究特集号について説明がなされ、次回の理事会で審議することとなった。

## 15. その他 事業委員会よりアクレディテーションに関する動向について

(両角理事)

両角理事より、事業委員会においてアクレディテーションについてJABEEに申請する方向で詳細を検討していることが報告された

## 16. 次回理事会日程(拡大)について

平成18年10月14日(土)

詳細時刻および場所は未定

記録：八馬

## 平成18年度第5回理事会議事録

日 時：平成18年10月14日(土)  
11:00 ~ 13:30

場 所：お茶の水 ホテル聚楽

出席者：杉山, 青木(弘), 蓮見,  
青木(史), 五十嵐, 大島,  
大平, 岡崎, 面矢, 工藤(卓),  
工藤(芳), 國本, 車, 黒川,  
佐藤, 白石, 須永, 田浦,  
田村, 永井, 生田目, 原田,  
森田, 両角, 山中, 河原林,  
國澤, 阿部, 八馬,

委任状出席：石川, 植村, 清水, 久保,  
酒井, 中嶋, 西川, 降旗,  
細谷, 松岡, 三橋, 宮崎, 金

### 1. 会長挨拶

杉山会長より挨拶がなされた。

### 2. 平成18年度第4回理事会議事録の承認

(八馬本部事務局幹事)

八馬本部事務局幹事より平成18年度第4回の議事録案が提示され、承認された。

### 【審議事項】

### 3. 平成19年度春季大会について

(河原林実行委員長)

配布資料に基づき、河原林実行委員長から平成19年度春季大会の計画概要について説明がなされた。計画の具体化にあたっては、18年度春季大会の知見を引き継ぐこと、各支部会や研究部会との連携を図ること、研究部会主導でテーマセッションの選定を進めることが要請され、今後、詳細な検討を進めることで承認された。また、大会実行委員会と理事会との緊密な連携を図るため、春季大会担当理事を早急に任命する必要がある、河原林実行委員長と相談しながら人選をすすめることとなった。

### 4. 芸術学関連学会連合シンポジウム

テーマについて (黒川理事)

配布資料に基づき、黒川理事より平成19年6月に京都国立近代美術館で開催される芸術学関連学会連合シンポジウムについて説明がなされた。デザイン学会から提案するテーマは、『芸術の基礎教育 = 感性と知性を育む芸術教育の再生 =』とすることで承認された。芸術学関連学会連合と連携をとって動けるように、山中理事を中心に検討を進めることが承認された。

### 5. 景観法特別研究特集号の件について

(黒川理事)

配布資料に基づき、黒川理事より景観法特別研究部会特集号の刊行について説明がなされた。学会誌編集出版委員会との調整により、来年度5月発行号とすることで承認された。

### 6. 会員の移動について

(八馬本部事務局幹事)

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会[正会員1名]、退会[正会員2名]が承認された。

### 7. その他

#### A 学会誌編集出版計画について

(工藤(卓)学会誌編集出版委員長)

工藤(卓)学会誌編集出版委員長より、来期(第15巻)の企画案について、第1号：景観法とデザインとの関係、第2号：家具のデザイン、第3号：デザインと資格、第4号：平成19年度秋季企画大会特集とする方針が示された。代替案も視野に入れタイトル、テーマについてより詳細に企画を進めることとなった。

#### B 「デザイン系大学・ショーケース」について

(森田理事)

配布資料に基づき、九州大学・芸術工学東京サイトを活用する「デザイン系大学・ショーケース」の提案がなされた。デザイン学会および各大学が

参加しやすい企画内容に変更してほしいとの要請があり、青木(史)理事を加えて協議を行い、その結果を踏まえて企画を再提示することとなった。

- C メーリングリストによる各種案内について (國澤本部事務局長)  
國澤本部事務局長より、教員公募案内をメーリングリストで流すとともにHPに掲載することが提案された。広告としての解釈や情報内容の限定など、詳細の取り決めを青木(弘)編集委員会委員長、大平企画委員会委員長、生田目広報委員会委員長、蓮見財務委員会委員長、國澤本部事務局長で協議し、掲載方法を決定した上で結果を理事会に報告することで承認された。

- A 第3支部活動について (國本副支部長)  
國本第3副支部長より、第3支部の活動報告がなされた。

- B 学会ホームページ講習会について (生田目広報委員長)  
生田目広報委員長より、次回理事会の日程に合わせて、現在運用をはじめている新たな学会ホームページの更新方法に関する講習会を開催することが示された。各委員会における実務担当者を出席させるように要請された。

12. 次回理事会(拡大)日程について  
平成18年12月中旬 詳細日程および場所は未定

#### 【報告事項】

記録：八馬

8. グッドプレゼンテーション賞の選考過程について (岡崎概要集委員会委員長)  
配布資料に基づき、岡崎概要集委員会委員長より第53回研究発表大会におけるグッドプレゼンテーション賞の選考過程に関する報告がなされた。
9. 第53回研究発表大会に関する所見と今後の対応について (工藤(芳)概要集編集委員)  
配布資料に基づき、工藤概要集編集委員より概要集編集の立場から、第53回研究発表大会に関する所見が報告された。今後、関係する理事の意見を集約し、後日の理事会にて改めて報告することが示された。
10. 第5支部活動について (車支部長)  
配布資料に基づき、車第5支部長より10月28日に開催する第5支部平成18年度研究発表会の概要説明と案内がなされた。
11. その他

## 平成18年度秋季大会報告

大会実行委員長 長田謙一

日本デザイン学会・首都大学東京・産業  
技術大学院大学 共催シンポジウム  
都市のクリエイティビティ  
産業・行政とデザイン/アートの共創

平成18年度の秋季大会は、2006年10月14日秋葉原コンベンションホールにおいて、標記のような共催シンポジウムとして、本学会員のほか、東京都職員、東京都スーパーデザイナー養成講座受講生等を含む多数の参加を得て、開催されました。

シンポジウム案内は次のようにその趣旨をうたいました：「高度に情報化を強めたポストインダストリアルな社会（への移行に伴って）デザインは、個々の製品のデザインであるだけでなく、同時に社会の文化システムの形成を担う技術として理解されようとしてきています。（略）都市は、このデザインとアートが密度高くかつ活力にみちて集積する文化システムの突出域であると同時にそれを全世界の文化システムにつなぐ結び目でもあります。都市が、文化システムを活性化させる力をそなえ、そこに住まい生き活動する一人ひとりに豊かな生を保証しかつ世界にあらたな文化価値を送り届ける力を有するとき、都市はクリエイティビティを発揮すると考えられます。このような意味で現代はまさに「都市のクリエイティビティ」が求められる時代だといえないでしょうか。シンポジウムは（略）このクリエイティビティにかかわる第一線のご活動をされている方々に（略）ご参集いただき、それぞれのお立場からする具体的な問題提起を踏まえつつ、「都市のクリエイティビティ」を論じ合おうとするものです。」

シンポジウムは、大会実行委員長石島辰太郎氏（産業技術大学院大学学長）の挨拶ではじまり、まず報告、後に討議

という構成で行われました。吉見俊哉氏（東京大学大学院情報学環）による基調講演は、制度化された眼差しの場として、外部との関係において文化を構造化する場として、人々の集積と編入の場としてとらえた都市の変容過程を、主として東京の明治期・戦後・70年代そして現代を適宜参照してたどり、現代都市のクリエイティビティを考えるにあたって、都市主権者としての住民の力の発揮が最重要のファクターであると論じます。つまり、都市のクリエイティビティを論じる理論枠組みは、Industry / Art / City Administration / Designの4ファクターに、さらに決定的要素として「市民」を加えたものとして理解されるべきである、と。ついで都市のクリエイティビティを担う各ファクターに関わる報告が続きます。まず加藤種男氏（アサヒビール株式会社）が、創造性に着目した芸術支援、表現に関わろうとする市民との提携を軸として展開し、アートNPOの台頭にもつながってきたメセナ活動の理念を論じ、BankART1929とも結んだ創造都市横浜を紹介しました；笠原美智子氏（東京と写真美術館）は、2005ヴェネチアビエンナーレ日本コミッションをつとめた立場を踏まえ、都市や国の文化芸術に対する支援のあり方を国際比較し、日本が今なお決定的に貧困であることを示しました；池田修氏（BankART1929）は、全国的に注目されているBankART1929における公設民営の文化的実験を「公設の新しい可能性」「まちづくりのツールとしてのアート」「採算の独立・自由」「未完成と空間時間のフレキシビリティ」等のキーワードに沿って、クリエイティブな都市の「駅」として特徴付けて紹介しました；臼井郁夫氏（東京都産業労働局）は、平成15年度以降、特に中小企業のデザイン活用による競争力強化を主眼として画期的に強化された東京都のデザイン施策の全容を、デザイン普及啓発セミナー・デザイン創造塾・産業技術研

究センター・東京デザインマーケット・スーパーデザイナー養成講座等の個々の事例を一つ一つ挙げて紹介しました；最後に、森田昌嗣氏（九州大学）が、パブリックデザインに関する九つのキーワードのなかから特に「公共性」について、「秩序化」と「個性」の二点を軸に、筑波・鶴見区・銀座・六本木・福岡などの事例に即しながらたどり、諸要素の編成による秩序化の創造と、地域に必然性を有した造形を課題として示しました。

討議のなかでは、民間からの文化提案・専門家のディレクター登用・市民協同という横浜市の文化施策の三特徴（加藤）新たな創造的活力に満ちた北沢（吉見）、横浜・北仲におけるアーティスト・デザイナー・建築家の集合の生み出す創造的活力（池田）等の新たな内容を加えながら、行政・教育などにお根強く残る縦割り体制や経済効率至上原理等を超えて、多様な人々の活力に満ちた動きとその連携の可能性をひらく「ヴォイド（空白）」を保障するというコンセプトの重要性を探り当てていくことになりました。

なお、シンポジウム運営に当たっては拓殖大学・首都大学東京の院生・学生の協力を得ています。



パネルディスカッションの様子



会場風景



## 第2支部活動報告(第1報)

第2支部長 松岡由幸

平成18年7月14日(金)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第2支部活動の第1弾:デザイン塾2006「デザイン理論&方法論の新展開」が開催されました。

本デザイン塾2006は、21世紀のデザインにおけるデザイン理論・デザイン方法論の新展開をメインテーマとしました。デザイン分野の教育・研究者、デザイナー、学生ら約170名の参加者があり、吉田和夫先生(慶應大)、前野隆司先生(慶應大)によるデザイン方法の生命化に関するご講演、筑波大・拓殖大・武蔵工業大・慶應大の学生による研究発表(計11件)およびポスタープレゼンテーション(計36件)を通じ、活発な議論が行われました。また、懇親会では、ポスタープレゼンテーションにおける優秀発表賞(計10件)の表彰が行われるとともに、参加いただいた多くの方々との交流を深めることができました。

以上の活動を通して、本支部に所属する複数の大学における学生間で、デザイン理論・方法論に関する議論および情報交換を図ることができました。



講演の様子



ポスタープレゼンテーションの様子

## 第5支部活動報告

第5支部長 車政弘

第5支部では平成18年10月28日(土)、福岡市、九州大学ユーザーサイエンス機構大橋サテライト「ルネット」にて、日本デザイン学会第5支部平成18年度研究発表会・懇親会を開催しました。

この研究発表会・懇親会は、第5支部会員を含むすべての参加者に、大学間の枠を越えたデザイン学および関連する領域の広い交流の場と位置づけ、同時に、学生の実習・演習課題等の展示発表を通じて、学生のプレゼンテーションテクニック向上と意見交換の良い機会にしたいと考え、企画したものです。

研究発表件数は17件(口頭発表14件、ポスター発表3件)で、学部学生による実習・演習課題作品の展示発表「学生作品プロポジション」は14件の参加で、充実した議論が行われました。当日の参加者は会員28名、一般19名で学部学生の参加者を含めると総数は90人弱でした。特に研究発表は第2支部、第4支部からも参加があり、実行委員一同大変喜んでおります。

参加者・発表者からは「小規模だが、内容のある良い研究発表会だった。来年も実施してほしい。」などの意見が寄せられています。ひとつの会場でのさまざまな分野の研究発表であり、聴講者もすべてを聴講、討論に参加できるという小規模会場の特徴が生かされたのではないかと思います。また、懇親会でも積極的な意見交換、交流が広がっていました。

研究発表は全国の研究発表大会に準ずる規定で行い、「第5支部 平成18年度研究発表会概要集」としてまとめられています。概要集ご希望の方には配布できるよう、次回理事会で検討して頂くこととしています。

実行委員として第5支部初の研究発表会・懇親会を盛り上げて頂いた九州在住の理事、幹事のみなさんにこの場を

お借りして、お礼を申し上げます。



口頭研究発表の発表風景



学生作品プロポジションの発表風景

## 平成18年度学会各賞 選考結果報告

平成18年度学会各賞選考委員会

本年度の学会各賞選考の結果を、ご報告いたします。なお、授賞式は10月14日に開催されました秋季企画大会において行われました。

### 会員等からの推薦状況

会員、論文審査委員会より推薦された各賞候補件数

- ・学会賞：2件
- ・研究奨励賞：2件
- ・年間論文賞：2件
- ・年間作品賞：1件

### 選考結果

- ・研究奨励賞：鈴木直人 「工芸振興に基づく途上国の効果的開発計画に関する研究」
- ・年間論文賞：面矢慎介 「英国における鍋の近代化 近代家庭機器のデザイン史」第52巻1号/通巻169号 掲載頁：pp.11-20
- ・年間論文賞：翁群儀、植田憲、宮崎清 「1930年代台湾漆器「蓬莱塗」の意匠特質」第52巻5号/通巻173号 掲載頁：pp.35-44
- ・年間作品賞：木下史青 「東京国立博物館 本館 日本ギャラリー リニューアル」

### 選考事由

- ・研究奨励賞：鈴木直人 「工芸振興に基づく途上国の効果的開発計画に関する研究」 「デザイン学研究」第52巻2号/通巻170号から第52巻3号/通巻171号に掲載されたEffective Regional Development in Developing Countries through Artisan Craft Promotionと題する鈴木直人氏の論文5報は、その表題が示すように、途上国の地域振興・地域開発支援の基軸にそれぞれの地域に伝承され

てきた伝統工芸品の振興を位置づけ、望ましい開発プロジェクトの形成ならびに評価のガイドラインを導出した、優れて実践的な論考である。氏は、上記の論文を通じて、以下の諸点を明らかにしている。

[1]途上国においては、急速な近代化のなかで民族文化のアイデンティティともいえる伝統工芸文化が消滅の危機に直面している事例が数多くみられ、それを基軸とした地域振興・地域開発支援に関する方法論の確立が緊急課題になっている。[2]途上国における伝統工芸品の技術・技法は総じて疲弊する農山村部に継承されており、その振興を図る最上部の目標として、伝統技術・価値観の継承、貧困解消、経済的自立の三つを掲げる必要がある。[3]伝統工芸品振興の支援には、政策レベル、支援組織レベル、生産者レベルにおける支援を有機的に結びつけながら実施するために、資源の発掘・整理・評価に基づくマスタープランの策定、デザイン展開、試作制作とその使用を通じてのデザイン改良等にわたって、当該地域の自治体・生産者・住民が積極的に参加できる参加型支援システムの構築が不可欠である。

総じて、鈴木直人氏の研究は、氏の長年にわたるUNIDOにおける地域振興・地域開発に関する支援活動での経験に依拠し、これまでの支援活動における非実効的側面の解消を図り、より有効な支援方法の総合的な枠組みを提起したものであり、学術的に価値あるものと認められる。

- ・年間論文賞：面矢慎介 「英国における鍋の近代化 近代家庭機器のデザイン史」

第52巻1号/通巻169号  
掲載頁：pp.11-20

本論文は、工業製品のデザインには、デザイナーの造形思想を超えて、利用可能な技術、企業活動、流通・販売システム、生活者の行動・心理・生活慣習な

どの社会全体の諸要素がダイナミックに反映しているとの視点に立ち、英国(イングランド)における調理用鍋の熱系家庭機器を対象に取り上げ、20世紀におけるデザイン変遷を具体的・立体的に俯瞰したものである。

論文では、総じて、[1]工業製品のデザイン変遷は決して一様でなく、それぞれの時代における基盤技術や社会システムの状況に加え、生活者の暮らしに関する慣習や観念が大きな作用要因となっていること、[2]製品に付加される機能要素はそれに先行する製品が果たしていた要素の更なる効率化・合理化を指標としているものの、その製品が果たす質に対する欲求と追求には歴史的・文化的・価値的志向が反映する。また、このことが工業製品デザインのアイデンティティ形成につながっていることなどが、論述されている。

本論文は、歴史的資料の精査・解析に基づきながら工業製品デザインの変遷過程とそのダイナミズムを俯瞰した「もののデザイン史」研究になっている。

- ・年間論文賞：翁群儀、植田憲、宮崎清 「1930年代台湾漆器「蓬莱塗」の意匠特質」

第52巻5号/通巻173号  
掲載頁：pp.35-44

本論文は、これまでその存在が必ずしも明らかにされてこなかった1930年代の台湾漆器・蓬莱塗の意匠特質を、蓬莱塗に携わっていた職人への聴き取り調査、現存実物資料の解析、蓬莱塗技法による再現制作等を通して、以下のように明らかにしている。[1]蓬莱塗は、四国出身の日本人山中公(旧姓甲谷)によって、台湾を訪れる日本人観光客向けの土産品として開発されたもので、そのデザイン手法は台中市立工芸伝習所において広く台湾の人びとに伝えられた。[2]その意匠は、台湾の風景や民俗、植物や動物などをモチーフとし、多様な色彩を用いて、台湾の活力を鮮明に表現したものである。また、彫刻



は、讃岐彫や鎌倉彫にも通じる技法を有しつつも、ダイナミックな刀跡を残す技法で、南の島の力強さを直截に表現している。[ 3 ] 現在蓬萊塗は全く制作されていないが、台湾の今後の漆器文化のなかに蓬萊塗をどのように蘇生するかの探究・実践が求められる。

本論文は、蓬萊塗の存在、ならびに、その意匠特質を明らかにしたもので、地域資源活用としての工芸のあり方にも示唆を与えるものといえる。

・年間作品賞：木下史青 「東京国立博物館 本館 日本ギャラリー リニューアル」

東京国立博物館本館リニューアルは、多くの国宝級日本美術を含めたわが国有数のコレクションをいかに魅力的に鑑賞してもらえるかという視点で展示室の鑑賞空間をデザインしたものである。限られた予算という制約のなかで環境、インテリア、照明デザインがバランスよくなされており、情報デザインも更新され、リニューアル効果を最大化している。照明システムや動線の改良などでは、従来の欠点を改良し、アメニティを高めている。各室、各コーナーのテーマ性を明確にするという意図は空間の随所に感じられる。

日本美術のハイライトとして仏像と浮世絵版画に重点を置いて、展示方法、照明などに最新のハイテク技術を導入しており、その効果もみられる。また、付帯するサービスとしてのインフォメーションサービス提供への努力も認められる。

後付で継ぎ足す発想のリニューアルではなく、器以外は、コンセプトからすべて刷新し、最新の表現手法を持って見学客に最高の満足を得ることを目的に、総合的視点で取り組んだデザイン室の果たした役割は大きく、今後の美術館・博物館におけるデザイン活動に新たな展望が付け加わった点を評価したい。作品の質の高さのみならず、デザイン活動の対象領域を拡大し、新たな

価値創造の可能性を創出したものとしても意義がある。

日本デザイン学会

平成18年度学会各賞選考委員会

委員長 宮崎 清

委員 青木弘行

河原林桂一郎

庄子晃子

杉山和雄

鈴木 邁

原田 昭

松岡由幸

宮内 愨

森 典彦

## 募集案内

### 安全工学シンポジウム 2007

#### 講演募集

主催: 日本学術会議総合工学委員会  
テーマ: 安全工学の創造的発展(予定)  
共催(予定): 安全工学会・化学工学会・火薬学会・計測自動制御学会・自動車技術会・土木学会・日本化学会・日本日本機械学会・日本技術士会・日本心理学会・日本デザイン学会・日本建築学会(幹事学会)他  
開催日: 2007年7月5日(木)、6日(金)  
会場: 日本学術会議 講堂・会議室  
(東京都港区六本木 7-22-34  
: 03-3403-6291)  
地下鉄千代田線「乃木坂」駅下車すぐ  
講演申込締切: 2007年3月15日(木)  
講演募集部門  
事故、災害に関する安全の概念  
安全と人間性、社会特性(ヒューマンファクターを含む)  
システムの安全性と信頼性(リスクアナリシス、セーフティアセスメントを含む)  
事故防止に関する検査・診断技術  
安全制御技術(ロボット、自動化システムを含む)  
建設に関する安全性と信頼性(計画、設計、施工、施工管理など)  
電気、電子および情報に関する安全性と信頼性(コンピュータ関連システム、セキュリティを含む)  
機械に関する安全性と信頼性(非破壊検査、構造健全性、寿命予測を含む)  
交通に関する安全性と信頼性(航空、宇宙、船舶、車両、道路など)  
燃焼、火災、爆発に関する安全性  
有害物質、環境に関する安全性  
地震と安全  
都市計画と安全  
災害と救急医療  
安全と危険予知  
製品と安全、PLの実証  
医療・福祉に関する安全  
社会と安全、経済性

その他の安全性に関する科学(理学、薬学、農学、医学などとの境界分野を含む) 技術、教育、国際基準など  
講演申込み方法: 書式はHP(<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2007/anzen2007/>)からダウンロードすることができます。後日、執筆要領を送付いたします。  
参加自由: 入場無料。講演予稿集は予価1部5,000円。但し、学生は1部2,000円で配布します。  
講演申込みおよび原稿提出先: 社団法人 日本建築学会 安全工学シンポジウム担当: 柴田(shibata@aij.or.jp)  
〒108-8414 東京都港区芝5-26-20 建築会館2階 TEL: 03-3456-2055、FAX: 03-3456-2058  
詳細は下記URLをご参照ください。  
<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2007/anzen2007/>

### 第55回年次大会(平成19年度)

#### 工学・工業教育研究講演会

#### 国際セッション 講演募集

メインテーマ: 大学全入時代の工学教育のあり方を考える  
主催: 社団法人日本工学教育協会  
担当: 関東工学教育協会  
日時: 平成19年8月3日(金)~5日(日)  
会場: 日本大学理工学部(駿河台キャンパス) 千代田区神田駿河台 1-8-14  
: 03-3259-0514  
一般講演テーマ(口頭発表): 大学・高専における教育, 創成教育, コンピュータ援用教育, 教育システム, 社会連携, 継続教育  
一般講演テーマ(ポスター発表): 創造性を育む様々な取り組み, 工学教育に関する Good Practice  
国際セッションテーマ: 工学教育における国際連携  
講演者の資格: (社)日本工学教育協会, 各地区工学教育協会の会員および協賛学会の会員。なお学生の発表の場合は, 共著者に指導教員を加えてください。  
口頭発表, ポスター発表申込:

当協会HPにて平成19年1月22日(月)より受付を開始します。不明な点は事務局までお問い合わせください。  
申込締切: 3月2日(金)  
国際セッション申込:  
当協会HP掲載のCall for Paperを参照してお申し込みください。  
申込締切: 3月2日(金)  
問い合わせ先: (社)日本工学教育協会 事務局 川上(kawakami@jsee.or.jp)  
〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館4階  
Tel.: 03-5442-1021 Fax.: 03-5442-0241  
詳細は下記URLをご参照ください。  
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsee/>

## 催し物

日本感性工学会

第3回春季大会 大会日程

会期：2007年3月16日(金)～17日(土)

会場：筑波大学・大学会館

<特別講演>

日時：3月16日(金)16:45～18:00

講演者：山海嘉之先生 つくば大学

大学院システム情報工学研究科

場所：国際会議室

<懇親会>

日時：3月16日(金)18:15～20:15

場所：大学会館レストラン

<参加登録費>

一般会員：5,000円、当日6,000円

一般非会員：7,000円、当日8,000円

学生会員：2,000円、当日2,000円

学生非会員：3,000円、当日3,000円

協賛団体会員は日本感性工学会員と同額で参加できます。

<懇親会費>

一般会員：5,000円、当日6,000円

一般非会員：5,000円、当日6,000円

学生会員：2,500円、当日3,000円

学生非会員：2,500円、当日3,000円

<問合せ先>

第3回春季大会実行委員会事務局

〒305-8577つくば市天王台1-1-1

筑波大学 人間総合科学研究科

感性認知脳科学専攻

感性情報学研究室 山中敏正

TEL:0298-53-2702(+FAX), 2811,2858

E-mail:jskeconf@jske.org

漆芸界の巨匠 人間国宝

松田権六の世界

会期：12月19日(火)～2月25日(日)

休刊日：月曜日(1月8日、2月12日)

休刊日は開館、翌日休刊)

開館時間：午前10時～午後5時

(入館午後4時30分まで)

主催：東京国立近代美術館、毎日新聞社

後援：文化庁

協賛：パイロットコーポレーション、東日

印刷、毎日ビルディング

<問合せ先>東京国立近代美術館工芸館

TEL:03-3211-7781

## 献本御礼

寄贈図書

- ・ 製品設計のための統計解析学, 松岡由幸編著, 栗原憲二, 奈良敢也, 氏家良樹著, 共立出版
  - ・ ひらめき脳をつくるパズル「デザインQ」, 馬場雄二著, 講談社+ 文庫
  - ・ DNA of JAPANESE DESIGN -「日本デザインの遺伝子展」の記録-, 日本貿易振興機構
- 機関誌
- ・ TOTO通信 2006年夏号, 東陶機器株式会社
  - ・ TOTO新商品 news 2006年夏号, 東陶機器株式会社
  - ・ たまび news No.43, Autumn 2006, 多摩美術大学
- 予稿集・論文集・報告書
- ・ 平成18年度工学・工業教育研究講演会講演論文集、(社)日本工学教育協会
  - ・ デザイン理論 第49号, 意匠学会, 2006
  - ・ 第22回 ファジィ システム シンポジウム講演論文概要集, 2006, 日本知能情報ファジィ学会
  - ・ 長野県工業技術総合センター 情報技術部門 研究報告 NO.1, 2006

### ～ 広報委員会からのお知らせ～

日本デザイン学会のホームページは、

2006年10月から <http://jssd.jp> へ移設・リニューアルいたしました。

新しいホームページでは、これまでどおり、学会の詳細情報の提供や大会の案内、会報の掲載などに加え、支部や部会の紹介および活動の案内、各種公募や教員公募などの情報の提供を含め、身近なニュースをタイムリーにお知らせすることを目指しています。

会員の皆様にとって有益な情報の提供を目指すと共に、本学会に関心をお寄せいただいている会員以外の皆様に対しても、日本デザイン学会の活動をご理解いただけるようにホームページのさらなる充実に努めてまいります。

広報委員会委員長 生田目美紀



## 会員の移動

平成 18 年度第 3 回理事会承認  
2006.6.30

< 新入会 >

\* 正会員 17 名 ( 内外国人 6 名 )

齋藤 俊文	佐藤 圭一
立岡 浩	敦賀 雄大
西澤 よそ子	畑中 朋子
早川 礎子	藤巻 徹
藤原 亨祐	森下 晶代
横田 英夫	朴 南泉
何 佳	FONG-GONG WU
陳 建旭	HOU MO-LI
程 英斌	

< 退会 >

\* 正会員 3 名

市原 茂	大塚 務
山手 正彦	

平成 18 年度第 4 回理事会承認  
2006.9.06

< 新入会 >

\* 正会員 19 名 ( 内外国人 3 名 )

青木 照護	雨宮 勇
池之上 智子	伊藤 結香
上西園 武良	酒井 宏明
鈴木 美和子	須藤 正時
杉田 佳穂	塚原 宏
日原 広一	藤田 良治
増成 和敏	三井 公一郎
山口 由衣	山本 佐恵
張 玲珠	尹 明漢
尹 智源	

< 退会 >

\* 正会員 11 名 ( 内外国人 1 名 )

石川 敬倫	石田 貞良
石田 光男	岡田 真
木村 素	西濱 豊和

藤枝 久美子	藤原 智代
峯 淳子	森 孝之

金 恩子

\* 賛助会員 3 件

日産車体 ( 株 )  
TDK ( 株 )  
関西ペイント ( 株 )

\* 年間購読会員 1 件

丸善 ( 株 )

平成 18 年度第 5 回理事会承認  
2006.10.14

< 新入会 >

\* 正会員 1 名

林 摩梨花

< 退会 >

\* 正会員 2 名

松井 幹雄 道吉 剛

## ~ IASDR ( 国際デザイン学会連合 ) 情報 ~

IASDR ( International Association of Societies of Design Research ) は、2006 年 11 月 3 日に、DRS の研究発表大会 Wonderground の会期中に理事会を行い、今後の活動についてさまざまな協議を行いました。その結果は、日本デザイン学会理事会議事録にも記載されますが、今後さらに国際的な研究支援組織として活性化する計画を持っています。また、本年 11 月に開催される 第 2 回 IASDR Congress の詳細が公開されましたのでご案内いたします。

### 第 2 回 IASDR 研究発表大会 : IASDR 07

1996 年から開催してきたアジアデザイン国際会議は、2005 年から IASDR によって主催される国際研究発表会として開催されています。2007 年は、**11 月 11 日 ~ 15 日に香港理工大 ( The Hong Kong Polytechnic University )** で大会が開催されることに決まり、論文の募集が始まっています。

大会 HP : <http://www.sd.polyu.edu.hk/iasdr/>

大会テーマ : Emerging Trends in Design Research

発表形式 : 口頭、ポスター

主な日程は以下の通りです。

**2 月 27 日 概要投稿期限**

3 月 26 日 概要審査通知

6 月 1 日 論文投稿期限

8 月 1 日 本論文審査通知

9 月 1 日 最終論文投稿期限

11 月 11 日 ~ 15 日 研究発表大会

ふるってご投稿下さい。

IASDR 担当 杉山和雄・山中敏正

# 第54回 日本デザイン学会 春季研究発表大会のご案内

大会実行委員会委員長 河原林桂一郎  
概要集編集委員会 岡崎章・工藤芳彰  
研究推進委員会 森田昌嗣・永井由佳里

既に会報等にて開催を告知しておりますとおり、第54回春季研究発表大会を下記要領にて開催することになりましたのでご案内申し上げます。多数の会員各位のご参加、ご発表をお待ちしております。

## 記

日程：平成19年6月22日（金）から6月24日（日）

会場：静岡文化芸術大学（JR浜松駅下車徒歩約15分）

〒430-8533 静岡県浜松市中央2-1-1

〒430-8533 静岡県浜松市中区中央2-1-1（平成19年4月以降）

## 研究発表の募集

研究発表の日程は平成19年6月23日（土）、24日（日）の二日間を予定しています。ぜひ、会員の皆様の日頃のデザイン研究の成果をご発表ください。発表時間は1件あたり20分（質疑応答、交替時間含む）の予定です。研究発表においては、質疑応答による新たな視点や知識の獲得も重要です。ついては、皆様の積極的なご参加と、活発な討議をお願いいたします。

また、53回大会より優れた研究発表には厳正な選考を経て大会委員長からグッドプレゼンテーション賞が授与されることになりました。今回も実施される予定です。どうぞ、奮って発表をお申し込みください。

## 研究発表の種類

研究発表には、「**口頭研究発表**」と「**ポスターによる研究発表**」の二種類の部門があります。口頭研究発表は、次の二つの枠に分かれております。どちらでもお好きな方をお選びください。

### A：テーマセッション＜研究部会統括発表＞

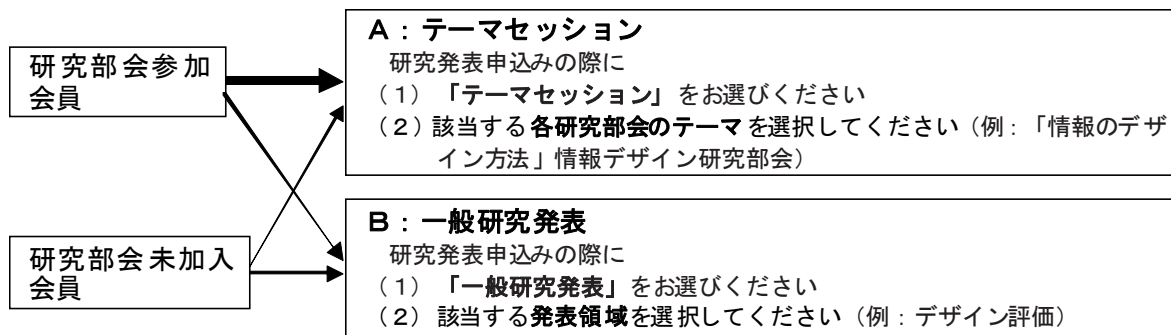
テーマセッションの特徴は各研究部会が積極的に運営する点です。予め研究部会から口頭発表のテーマ（課題とする研究目的）が提示されますので、会員は（部会員以外も）発表申込みの際に、そのテーマでの発表を希望できます。枠内のプログラム編成は、研究部会に委ねられますので、テーマにふさわしい基調発表をもうけるなど独自に工夫され、構成されています。

（デザイン学会には現在13の研究部会があります。各部会については学会HPをご覧ください）

### B：一般研究発表

上記のテーマ以外の口頭発表です。

## 口頭発表の申込方法の違い



- \* 詳細は平成19年2月以降 学会ホームページに掲載の予定です。  
(<http://www.soc.nii.ac.jp/jssd/index.html>)
- \* テーマセッションについてご不明の点は研究推進委員会にお問合わせください。  
([JSSD-Research@jaist.ac.jp](mailto:JSSD-Research@jaist.ac.jp))

## 研究発表の申込み手続き

口頭発表(テーマセッション・一般研究発表)及び、ポスター発表のいずれも申込は以下のとおりです。

発表申込期間 **平成19年3月13日(火)～26日(月)(予定)**

発表申込方法 Webからの申込みをお願いします。(概要集原稿も同時に投稿してください)  
学会ホームページからアクセスすることができます。  
(<http://www.soc.nii.ac.jp/jssd/index.html>)

\* なお、Webから投稿が出来ない方は、本部事務局([jssd@mx10.ttcn.ne.jp](mailto:jssd@mx10.ttcn.ne.jp))にご照会ください。

## 発表申込後のスケジュール

発表採否連絡 平成19年4月中旬以降ご連絡いたします。

発表日時・場所 平成19年5月末にご連絡いたします。

原稿執筆要領 平成19年1月以降 学会ホームページに掲載の予定  
(<http://www.soc.nii.ac.jp/jssd/index.html>)

研究発表日程 平成19年6月23日(土)、24日(日)

お問い合わせ先 **概要集編集担当 拓殖大学 岡崎章, 工藤芳彰**  
([jssd@id.takushoku-u.ac.jp](mailto:jssd@id.takushoku-u.ac.jp))

以上